

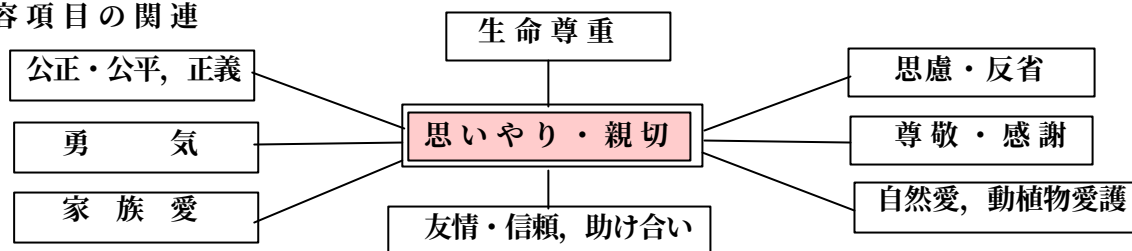
① 内容項目「思いやり・親切」の分析をする

ア 言葉

「思いやり」・・・人間はだれでも、常に他の人々のことを気遣いながら生活している。慈しみの心をもっての他の人々への心遣いが、思いやりである。

「親切」・・・親切とは、弱い立場にある人や困っている人の身になって慈しみの心をもって、何かしたり、やさしく対応したりすることであり、おせっかいや見返りを期待したものではない。

イ 内容項目の関連



ウ 人間のもつ心の二面性

○ 望ましい行為を阻む欲求等（心の弱さ）

・はずかしい ・きつい ・関係ない, 誰かがするだろう ・知らない人だから
・断られたらどうしよう ・勇気がない など

○ 望ましい行為を支える見方・考え方・感じ方

<意義（よさ）>

・いい気持ちになる ・後で後悔しない ・相手が助かる ・信頼関係が深まる
・住みやすい世の中になる など

<心構え>

・相手の気持ちを考える ・相手の立場を考える ・勇気をもつ ・誰にでもやさしくする など

② 一人一人の実態を把握する

ア 実態調査の項目例（人間のもつ心の二面性から）

実践できなかったこと

- 1 友達や身の回りの人にやさしくできなかったことに、どんなことがありますか。
(望ましい行為を実践できなかった経験)
- 2 どんな気持ちからやさしくできなかったのですか。(心の弱さ)

実践できたこと

- 3 友達や周りの人にやさしくできたことに、どんなことがありますか。
(望ましい行為を実践できた経験)
- 4 友達や周りの人にやさしくすることは、なぜ大切のですか。(意義)
- 5 友達や周りの人にやさしくするためには、どんな気持ちをもてばいいですか。
(心構え)

イ 考察

※ 項目に対する回答を分析し、子ども一人一人や学級の内容項目に対する認識や経験について考察する。

③ 資料を選択し、分析する

※ 望ましい行為の実践を阻む欲求等（心の弱さ）や望ましい行為を実践できたときの見方・考え方・感じ方（意義，心構え）から分析する。

＜例＞ 資料名「おじいさんの顔」（生きる力 大阪書籍 4 年）

おじいさんの顔

——（前文は省略）——

最後の人がホームをおりると、（きつい、早く乗りたいな） ぼくは、さつと乗りました。

おじいさんは、ぼくの前にその重そうな荷物をおくと、「どこかせきはあいていないかなあ。」というように、見まわしていました。しわだらけの顔が、あせびっしりです。ぼくは、いなかのおじいちゃんのことを思い出しました。せきをゆずってあげてもいいけれど、（はずかしい、断られたらどうしよう） はずかしいし、つぎの駅でどこかのせきがあくかもしれないと思つたので、（勇気がない） そのままじつとしていました。

つぎの駅についても、せきはあきませんでした。

おじいさんはハンカチであせをふきながら、ときどき大きな息をして立っています。電車がゆれるたびに、足もとがふらふらしています。（相手の気持ちを考える）

「どうぞ。」（勇気をだす） ぼくは、思いきって立って言いました。

おじいさんは、「かまいません。いいですよ。」と言つて、わらっています。ぼくは、「いいです。どうぞ。」

前より大きい声で言いました。おじいさんは、「（おじいちゃんが助かる、喜ぶ） ありがとうね。ありがとうね。」と・・・（以下は省略）



~~~~~ 心の弱さ

———— 意義・心構え

＜意識の流れの表（例）＞

| 場 面                                 | 主人公の心の動き                                         | おじいさんの心の動き                  | 内容項目        |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------|-------------|
| 1 人出の多い日曜日にお母さんといっしょに電車に乗る。         | ・ きつい，早くすわりたいな。                                  |                             |             |
| 2 大きなふろしきぶつみとかばんを両手に持ったおじいさんが乗ってくる。 | ・ どうしよう。せきをゆずってあげたいけれど・・・<br>・ はずかしい，断られたらどうしよう。 | ・ 重い，きつい。<br>・ せきにすわって休みたい。 | 思慮・反省<br>勇氣 |

### ④ ねらいを決める

親切にすることによって，気持ちが通じ合い，みんなが楽しく暮らせることを自らの体験と関係付けて理解し，困っている人のことを思いやり，親切にしようとする気持ちを高める。

⑤ 学習過程，学習形態，教師の具体的な働きかけを考える

| 過程                                                                                                                              | 主な学習活動                                                                                                                                                  | 時間  | 教師の具体的な働きかけ                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>気付く</div> <div>↓</div> <div>さぐる</div> <div>↓</div> <div>見つける</div> <div>↓</div> <div>深める</div> <div>↓</div> <div>見通す</div> | 1 親切にされたときと，親切にできなかったときの体験について話し合う。<br><div>困っている人に親切にできるためには，どんな気持ちをもっと大切すればよいのだろうか。</div>                                                             | 5分  | ○ 実態調査から，今までの生活体験を想起させ，親切にされたときと親切にできなかったときの感情の矛盾から自分なりの問題意識をもたせる。                                                                                                                     |
|                                                                                                                                 | 2 資料「おじいさんの顔」を読んで「思いやり・親切」について話し合う。<br>(1) 主人公やおじいさんについての感想を発表する。<br>(2) 迷っているときのぼくの心の弱さについて話し合う。<br>(3) おじいさんに席を譲ったときの様子を役割演技し，そのときのぼくの感動や考え方について話し合う。 | 30分 | ○ 「 <u>「お年寄りとの交流」のときの心情を想起させるために，交流の写真を提示する。</u><br>○ 迷っているときのぼくの心情に共感させるために，実態調査票をもとに <u>バスや電車，高齢者との交流での様子を意図的に取り上げる。</u><br>○ <u>高齢者との交流のVTRを視聴させそのときの心情と主人公の心情を結び付けながら役割演技をさせる。</u> |
|                                                                                                                                 | 3 困っている人に親切にできるためには，どんな気持ちを大切にすればよいのか自分の体験に当てはめて話し合う。                                                                                                   | 10分 | ○ 「思いやり・親切」にかかわる生き方の自覚を深めるために，個や共通の体験の中での自らの心情や行為と結び付けて自分の課題を考えさせる。                                                                                                                    |
|                                                                                                                                 | 4 友だちの作文「やさしさ」を聞く。                                                                                                                                      |     | ○ 意識を連続させ高めるために，やさしさについての作文を取り上げる。                                                                                                                                                     |

※下線は体験との関連を図った具体的な働きかけ

⑥ 中心発問，基本発問，補助発問を考える

### ＜さぐる段階での発問例＞

(基本発問) どうしてすぐに席を譲れなかったのですか。

・はずかしい ・断られたらどうしよう ・勇気がでない

(補助発問) みなさんも同じような気持ちになったことがありますか。

### ＜見つける段階での発問例＞

(基本発問) おじいさんにお礼を言われたとき、どんな気持ちだったのでしょうか。

(中心発問) どんな気持ちや考えから、「どうぞ」と言ったのでしょうか。

・かわいそう      ・もし自分だったら      ・おじいさんが助かる、喜ぶ

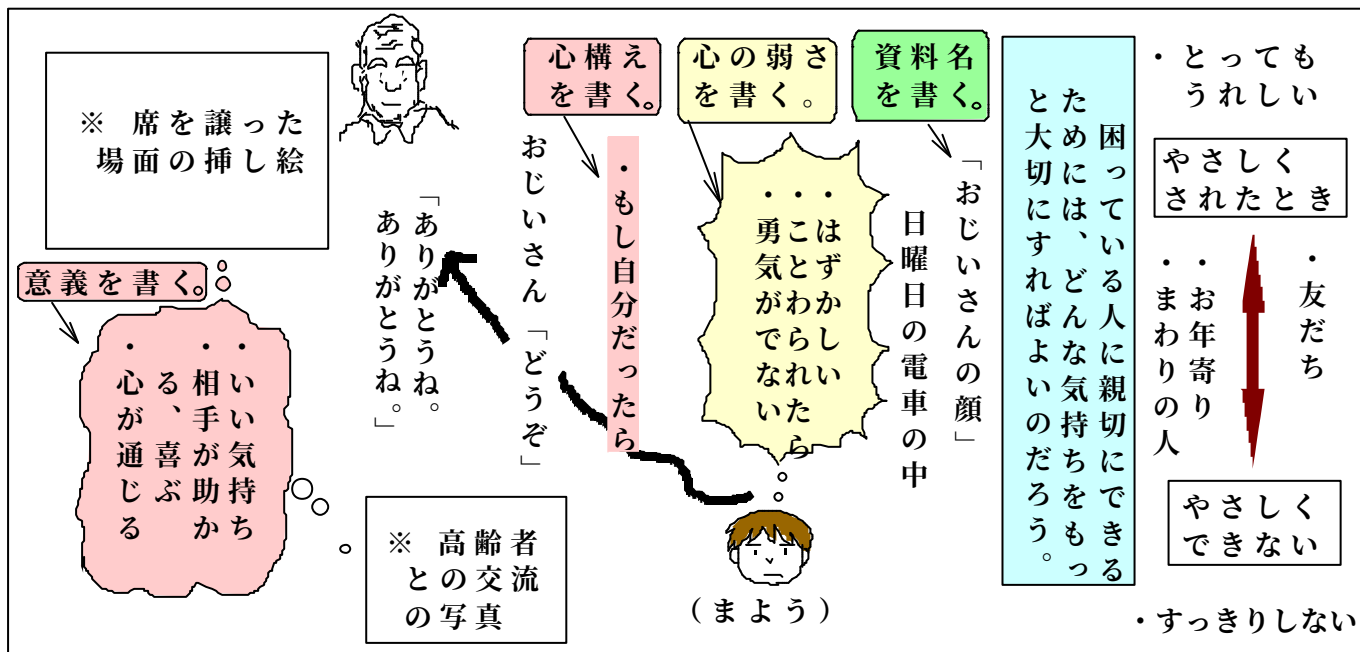
## ⑦ 評価の場を考える

※ 道德の時間においては、例えば、次のような評価の観点が考えられる。

- 主人公の心の弱さや望ましい行為を支える見方等を自分の生活と関連付けて考えているか。 (さぐる段階・見つける段階)
- 今まで自分が大切にしたり，足りなかったりした見方等を自覚したか。 (深める段階)
- その生き方に感動し，自分の生活に生かそうとする意欲が高まったか。 (見通す段階)

## ⑧ 板書，事後指導を考える

### ＜板書の構造例＞



### ＜事後指導＞

※ 一人一人の体験や特別活動等の体験的な活動において、子どもの姿を見取り一人一人のよさを認め、励ます。